

圧力感じる電子皮膚

人の皮膚のように、つかんだモノの圧力を感じることが出来る電子人工皮膚を東京大学のグループが開発し、21日発表した。ロボットに使えば、人に近い皮膚感覚を持たせることもできるようになりそうだ。

グループは、桜井貴康・生産技術研究所教授と染谷隆夫・工学系研究科助教授ら。

ロボットの表面を覆うには曲げ伸ばしのできる素材が要る。グループはフィルムのような特殊なシートを製作。2〜3ミクロン間隔で格子状に圧力セ

ンサーを配置して人工皮膚を作った。温度センサーをつければ、ぬくもりを感じられるようになる。5年をめどに実用化をめざす考えだ。

桜井さんは「ロボットが家庭や病院などに入ってくると人間に近い感覚が期待される」と話す。

先端技術「ヒト」に肉薄

